

1. 震度7の地震を想定した準備が必要では

東日本大震災後、熊本、大阪と大地震が相次ぎ、今年9月6日には北海道南西部で最大震度7の地震が発生した。また、異常気象の影響と思われる水害を含め、尊い人命や財産が数多く失われてしまった。誰もが、想像できない想定外の事象であり、どこまで万全の準備をすべきか難しい状況にある。

今までとはまったく異なる災害規模が発生することを考慮し、二次的災害の対応も図る必要がある。我が国は地震大国であることを念頭に、地震や水害に対する危機管理が大変重要である。災害が一旦発生すると、生命や財産の保護に努め、速やかな町民の安全と生活の復旧、復興に努めることが行政の努めである。緊急事態の発生に対応する危機管理、マネジメントについて今後は再検討することが望まれる。

災害を想定した従来の危機管理で本当に大丈夫であるのか、足柄平野を取り巻く活断層は、三保ダムの周辺に集中していることから真剣に議論することを求め、次の質問を問う。

- ① 三保ダム崩壊による町に与える影響をシミュレーションする必要性は。
- ② 山岳部の大規模地滑りや斜面崩壊の発生で酒匂川、三保ダムへの影響は。
- ③ 洪水による町が受ける人的、物的被害規模と対応の想定はできるのか。